

資料選択の幅を広げる新しい図書館資料アクセス方法の提案

坂本 かなえ

図書館には数多くの資料があり、図書館利用者は資料にアクセスをすることによりあらゆる興味関心に触れる機会を得ることができる。しかし、今まで利用者が図書館資料にアクセスをしてきた方法では、利用することができる資料の範囲は特定の資料や書架に限られてしまい、図書館利用者は図書館資料を有効に活用することができていない。そこで、本研究は利用者の資料選択の幅を広げることが可能な図書館資料への新しいアクセス方法を提案することを目的とする。

本研究では図書館資料への新しいアクセス方法として、あらかじめ指定された複数の資料を入手するための経路を辿ってもらう方法を提案する。これをトレーシングと呼ぶ。トレーシングによって利用者が普段向かわない書架で新しい興味のある資料を発見する効果、普段立ち寄らない書架を通ることで図書館にどのような資料があるかについて学ぶ効果を期待できる。

トレーシングにどのような効果があるかを明らかにするため、実際の公共図書館で調査を行った。調査協力者は対象の公共図書館を利用したことがない15名である。調査協力者にはあるテーマの資料5冊と経路を示した地図が記されたワークシートを渡してトレーシングを行ってもらった。また、トレーシングを行いながら、書架で見つけた興味関心のある資料について記録してもらった。トレーシングは異なるテーマで2回行ってもらい、その後図書館の配架に関するテストとインタビュー調査を行った。

調査の結果、トレーシングを行うことにより、利用者は元々関心がある資料だけではなく、今までほとんど読んでことがなかった分野の資料を手にする様子が観察された。特にこれから学びたい、または知りたいと感じていた分野の資料については、該当の資料やその資料のある書架にも関心があることがわかった。また、トレーシングで通った経路にあった書架についても資料を目印に部分的に理解しており、一部ではあるが図書館への理解が見られた。さらに1回目と2回目のトレーシングでは、2回目の方が図書館書架の配置を理解しており、指定の資料の探索がうまくいった。

本研究では新しい図書館資料アクセス方法としてトレーシングを提案した。実際の公共図書館で行った調査により、トレーシングは新しい資料を手にし、資料の配架を理解することにより利用者の資料選択の幅を広げる可能性があることがわかった。今後の課題は興味関心のある資料を見つけなかった人に対して、トレーシングで回る経路や資料を工夫することである。また、トレーシングの最中に書架を集中して見るができるように、迷いにくい経路とわかりやすい目印の設定を検討する必要がある。

(指導教員 松村敦)